令和7年度松山東高校全日制入学式式辞（令和7年4月8日）

本日、この佳き日に、多くの御来賓の皆様の御臨席を賜り、保護者の皆様の御出席の下、令和7年度愛媛県立松山東高等学校の入学式を挙行できますことは、私たち教職員にとって、大きな喜びでございます。

ただ今、入学を許可いたしました新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。皆さんの御入学を、心から歓迎いたします。また、保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。心からお祝い申し上げます。

本校は、松山中学校創立から147年、前身の松山藩藩校「明教館」から数えると、197年の歴史があり、ゆかりの人物は、秋山真之、秋山好古、正岡子規、夏目漱石など、枚挙にいとまがありません。終戦後まもなく文部大臣となり、教育の民主化に努めた安倍能成氏の胸像は、日々、正門で私たちを見守っています。ノーベル文学賞作家の大江健三郎さんをはじめ、多くの先輩方が地域のために、また、日本や世界を舞台に活躍しておられます。

皆さんも、この松山東高校でのかけがえのない出会いや経験を通して、強く賢く自分を鍛え、級友たちと切磋琢磨し、社会に力強く羽ばたいてほしい、そう願っています。

昨年秋、劇場アニメ「がんばっていきまっしょい」が公開されました。この言葉は、昭和40年頃、松山東高校で、保健体育の高橋俊三先生とともに集団走をする生徒の中から、互いを励ます掛け声として生まれたもので、もう60年近く、学校行事や部活動などで「気合い入れ」の言葉として受け継がれ、全校生徒はもちろん、卒業生全員の合言葉になっています。

この言葉は、級友や大人たちが、ただ「頑張れ頑張れ」と応援しているだけではない、そして、「頑張っていてほしい」とひたすら祈っているだけではありません。「みんなで一緒に頑張ろう、頑張っていこう」という、清らかに、それでいて熱く燃える『東高魂』の象徴です。そして、そのあと、「もう一つ、頑張っていきまっしょい」と続きます。

頑張っていく、そして、もう一つ、さらにみんなで高みを目指していく、そんな東高の環境の中で、皆さんの高校生活がどのように繰り広げられるのか。ひょっとしたら、くじけそうになることもあるかもしれない、でも、「頑張っていきまっしょい」の言葉どおり、多少のことではくじけずに、全員で元気に頑張っていきましょう。

本校は、学習や部活動、学校行事など、学校生活全体を通して、学力はもちろん、人を思いやる心や、コミュニケーション力、挑戦する力など、豊かな人間性を身に付けることができる学校です。皆さんには、学校生活を通して、本当の強さ、本当の賢さを身に付けてほしい、「情熱と実行」、強い気持ちとそれに伴う高い実行力で、高い目標、広い視野、豊かな人間性を持った、信頼される人になってほしい、そう願っています。

保護者の皆様、松山東高校では、高い目標、広い視野、豊かな人間性、「高く、広く、そして豊かに」を教育活動の目標として掲げており、お子様が、それぞれの目標を実現するに足る、真の強さと賢さ、真のたくましさを備えた人物となって、社会に力強く羽ばたいていけるよう、力を尽くしてまいります。どうか、本校の教育活動に御理解と御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

東高生となった新入生の皆さん、改めて、御入学おめでとう。皆さん一人一人の成長を期待して、式辞といたします。

令和7年4月8日

愛媛県立松山東高等学校長 沖田浩史